

がん検診の重要性

■がんについて

がんはごく早期に発見すればほとんど完治する時代になってきており、内視鏡などの負担の少ない治療も増えてきていて、早期のがんを発見するためにはきちんとがん検診を受けることが重要です。

- 日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで死亡しています。
- 会社在职中の死亡原因の約50%はがんだと言われています。
- 50歳未満の女性は、男性の約2倍がんにかかりやすく、その半数は乳がんまたは婦人科のがんです。
- 特に大腸がんは男女ともに比較的若い人からも発見されます。
- がんと診断された人の約60%は完治し、ごく早期に発見すれば100%近くが完治する時代となってきました。
- 治療も内視鏡治療など負担の少ない治療が増えてきています。

■富士フィルムグループ がん検診

胃がん検診：年1回受診・内視鏡検査推奨

- 35歳、40歳以上は毎年受けましょう
- 検査には「X線検査」と「内視鏡検査」（胃カメラ）がありますが、
- 「X線検査」では早期の食道がんや胃がんは見つかりにくいので「内視鏡検査」をお勧めします

大腸がん検診：便潜血は年1回受診・50歳になったら内視鏡検査

- 35歳、40歳以上は毎年受けましょう
- 大腸がん検診の「便潜血検査」が陽性となった場合は、必ず「大腸内視鏡検査」を受けてください
- 「便潜血検査」が陽性にならなくても、50歳になったら一度は「大腸内視鏡検査」を受けてください

乳がん・子宮がん検診：年1回受診

- 乳がん検診は、毎年39歳以下は「超音波（エコー）」を、40歳以上は「マンモグラフィー」を受けましょう
- 子宮がん検診を毎年受けましょう
- 乳がんや婦人科のがんは若い人にも多いので、年齢にかかわらず受けてください